



- 1) 第49回 日本頭痛学会総会会長 今井昇先生よりご寄稿
- 2) 第49回 日本頭痛学会総会開催のお知らせ
- 3) HMSJ 2021 Web: Headache Master School Japan 2021 Web Autumnal Semester 開催のお知らせ
- 4) Harold G. Wolff 賞受賞のご寄稿文について(石井亮太郎先生)
- 5) 慢性頭痛オンライン診療 e-learning について
- 6) CGRP関連新規片頭痛治療薬ガイドライン(暫定版)の掲載について
- 7) オンラインジャーナルによる「日本頭痛学会誌」発刊について
- 8) 日本頭痛学会認定指導医更新について
- 9) 頭痛研究のトピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します



## 1) 第49回日本頭痛学会総会会長 今井昇先生よりご寄稿

『第49回日本頭痛学会総会のご挨拶』

会長 今井 昇

(静岡赤十字病院脳神経内科 部長)



第49回日本頭痛学会総会を静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップで開催させていただきます。中部地方で開催する初の総会であり、頭痛医療の均霑化に貢献できる学会にしたいと思っております。会期は2021年11月19日(金)～21日(日)の3日間です。従来は2日間の開催ですが、前回予定していたオンラインでの企画を充実して行うため半日延長し、3日間の開催とさせていただきます。

メインテーマは「Sunrise of new headache management」とし、CGRP関連製剤だけではなく遠隔診療や医療連携を包括した新しい頭痛医療を推進する学会にしたいと思っております。また、現在直面しているCOVID-19を乗り越えていくための情報を共有する学会にもしたいと思っております。

学会企画としては一般演題(139題)、シンポジウム(16件)、特別企画(5件)、教育セミナー(2件)の他に特別講演、日本口腔顔面痛学会との共催企画、東洋医学セミナー、共催特別企画、ランチョンセミナー、プレイブニングセミナー、イブニングセミナーを予定しております。

特別講演では海外から国際頭痛学会会長のCristina Tassorelli先生と次期国際頭痛学会会長のRami Burstein先生をお招きする予定です。国内からは、神経可塑性の臨床応用に造詣の深い横浜市立大学医学

生理学教授の高橋琢哉先生をお招きしています。また、今年の Harold G. Wolff 賞を受賞した石井亮太郎先生に受賞講演をお願いしました。一般の方を対象に、JPAC と共催で市民公開講座を行います。

本学会では以前よりサテライト企画として、日本口腔顔面痛学会と共催セミナーを開催していましたが、今回は第 26 回日本口腔顔面痛学会総会・学術大会が 11 月 20 日～21 日に本学会と同じ会場で開催されます。これに伴い大会長の井川雅子先生と相談し、日本口腔顔面痛学会との共同企画を予定しました。また以前より静岡では地域医療連携が活発に行われており、地域における新しい治療の均霑化を推進することを目的として、県内の頭痛診療に熱心な先生や医師会の先生に向けた特別企画とシンポジウムを予定しています。

なお COVID-19 の感染拡大の状況に対応できるように Web を併用していく予定であります。状況が落ち着いておりましたら、世界遺産である富士山など数多くの観光名所、駿河湾の豊富な海の幸を生かした郷土料理、静岡酵母から生まれた香り豊かな地酒、地元の素材を使ったご当地 B 級グルメなどを、多くの学会員並びに関連学会、医師会等のご参加の皆様がご家族とともにお越しいただき学会の合間楽しんでいただければと思っております。

本総会が盛り多き学会となりますよう、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 2) 第 49 回日本頭痛学会総会開催のお知らせ

第 49 回日本頭痛学会総会 「Sunrise of new headache management」

開催日： 2021 年 11 月 19 日(金)～11 月 21 日(日)

会場： 静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ

大会長： 会長 今井昇 先生(静岡赤十字病院脳神経内科 部長)

ホームページ： <http://jhs49.umin.jp/index.html>

今回もコロナ禍での開催となりますが、感染対策に配慮しながら多くの魅力的な企画が準備されています。オンライン参加登録は 10 月半ばより開始予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

## 3) HMSJ 2021 Web: Headache Master School Japan 2021 Web Autumnal Semester 開催のお知らせ

春に引き続き今年度 2 回目の HMSJ ですが、秋も Web 開催となりました。なお、今回は 1 日限りの開催となっています。受講をご希望の場合は、下記ホームページからお申込ください。

開催日： 2021 年 11 月 14 日(土) 9 時 00 分～16 時 00 分(予定)

参加受付:~2021年10月29日(金)まで(締め切り厳守)

実行委員長:寺山靖夫 先生(湘南慶育病院 副院長, 脳神経センター長・日本頭痛学会教育関連委員長)

ホームページ: <http://hmsj2021-2.umin.jp/index.html>

#### 4) Harold G. Wolff 賞受賞のご寄稿文について(石井亮太郎先生)

京都府立医科大学の石井亮太郎先生が, 2021年6月にフロリダで開催された American Headache Society Meeting で Harold G. Wolff 賞(Harold Wolff Lecture Award)を受賞されました。ご寄稿を掲載していますのでぜひご覧ください。また, 併せて論文もぜひご一読ください。

寄稿文: [https://www.jhsnet.net/pdf/20210603\\_kikou.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/20210603_kikou.pdf)

論文: <https://headachejournal.onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/head.14154>

#### 5) 慢性頭痛オンライン診療 e-learning について

このたび日本頭痛学会より慢性頭痛オンライン診療 e-learning が開設されました。これは, 慢性頭痛のオンライン診療を行うために必須となる研修です。本 e-learning を受講後, テストに合格することで受講証明書が発行され, これをもって慢性頭痛のオンライン診療を行うための適切な研修を履修したことが認められます。該当される先生方は受講ください。

受講案内: [https://www.jhsnet.net/pdf/learning\\_chronic\\_headache.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/learning_chronic_headache.pdf)

#### 6) CGRP関連新規片頭痛治療薬ガイドライン(暫定版)の掲載について

カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)関連新規片頭痛治療薬として, 2021年4月にガルカネズマブ(エムガルディ), 8月にエレヌマブ(アイモビーグ), フレマネズマブ(アジヨビ)が承認され, 使用可能となりました。現在改訂作業中の「慢性頭痛の診療ガイドライン」では, CGRP 関連新規片頭痛治療薬についても掲載予定ですが, 日本頭痛学会では, 喫緊の対応として, 使用に関する手順や留意事項をまとめた暫定ガイドラインをホームページ内に公開していますのでご参照ください。

<https://www.jhsnet.net/guideline CGRP.html>

#### 7) オンラインジャーナルによる「日本頭痛学会誌」発刊について

2021年9月1日より, 日本頭痛学会誌 第48巻第1号がオンラインジャーナルとして J-STAGE 上に

公開されました。下記のアドレスよりご利用ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjho/-char/ja>

## 8) 日本頭痛学会認定指導医更新について

日本頭痛学会認定指導医更新の時期となっています。該当される先生は、ホームページをご確認の上、2021年10月20日までにお手続きをお願いします。詳細は学会ホームページをご確認ください。

<https://www.jhsnet.net/pdf/sidouit tebiki.pdf>

## 9) 頭痛研究のトピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- マウス慢性片頭痛及び外傷後頭痛モデルにおける CGRP と PACAP 反応性三叉神経節ニューロンの増加  
Guo Z, et al. Increase in trigeminal ganglion neurons that respond to both calcitonin gene-related peptide and pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide in mouse models of chronic migraine and posttraumatic headache. Pain 2021; 162: 1483-1499.  
掲載日:2021/5/26 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutu topics 123.pdf>

- 片頭痛発作中の eptinezumab 投与による治療効果の検討

Winner PK, et al. Effects of intravenous eptinezumab vs placebo on headache pain and most bothersome symptom when initiated during a migraine attack: A randomized clinical trial. JAMA. 2021; 325: 2348-2356.

掲載日:2021/7/2 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutu topics 124.pdf>

- 2つのGWASによる群発頭痛患者疾患リスク遺伝子座の同定

1. Harder AVE, et al. Genetic susceptibility loci in genome-wide association study of cluster headache. Ann Neurol 2021 Jun 28. doi: 10.1002/ana.26146.

2. O'Connor E, et al. Genome wide association study identifies risk loci for cluster headache. Ann Neurol 2021 Jun 29. doi: 10.1002/ana.26150.

掲載日:2021/7/27 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutu topics 125.pdf>

- Atogepant による片頭痛予防効果

Ailani J, et al. Atogepant for the Preventive Treatment of Migraine. N Engl J Med 2021; 385: 695-706.

掲載日:2021/9/3 [https://www.jhsnet.net/pdf/zutu\\_topics\\_126.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_126.pdf)

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見, 問い合わせは<[jhs-office@shunkosha.com](mailto:jhs-office@shunkosha.com)>までお願いいたします.